

経営比較分析表（平成30年度決算）

熊本県 こころの医療センター

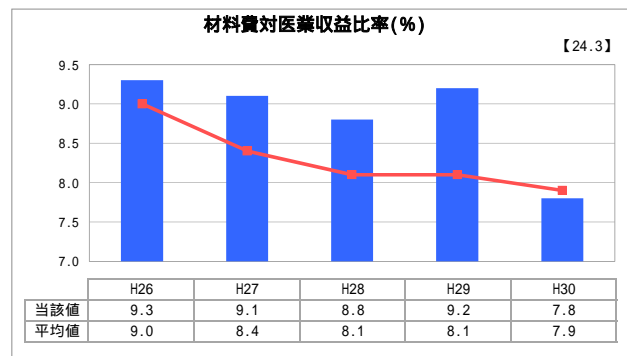
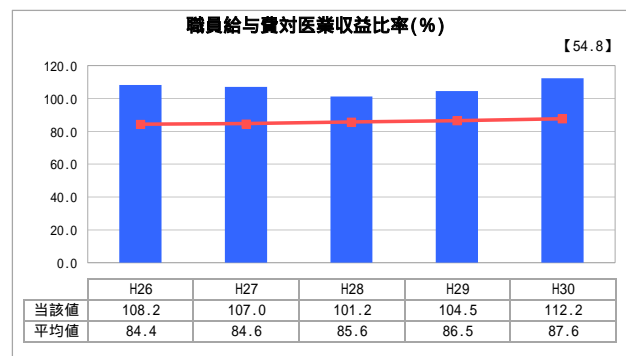
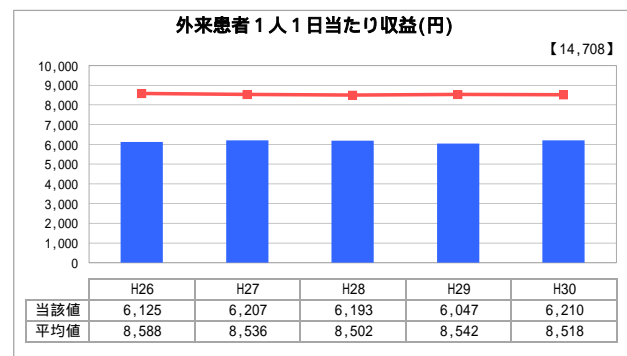
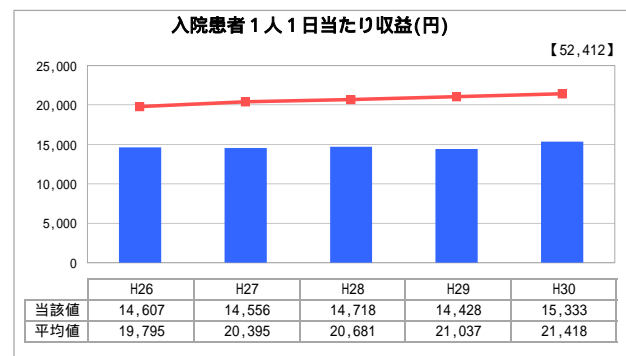
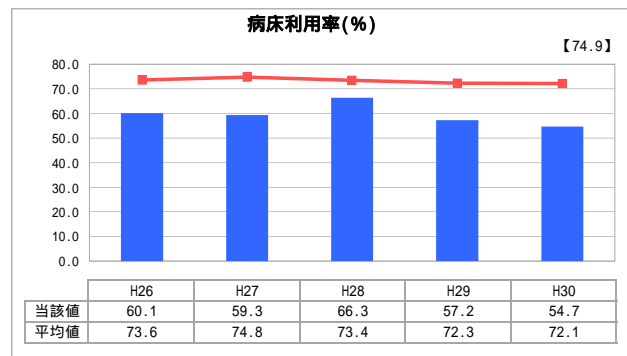
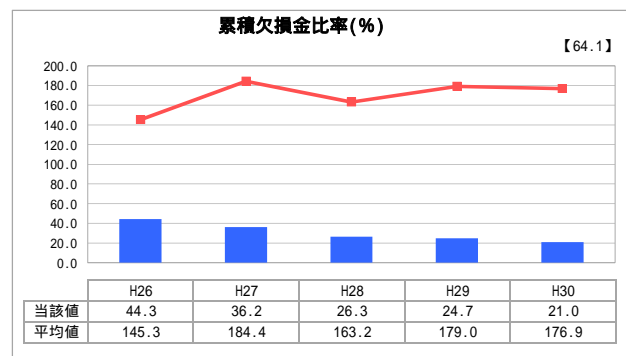
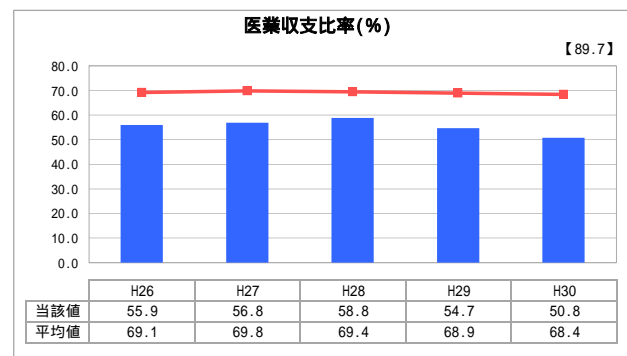
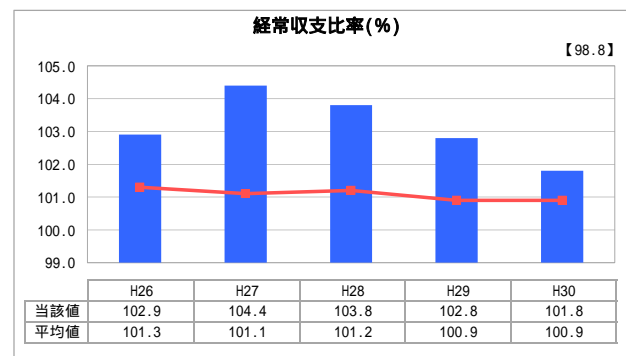
法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	精神科病院	精神病院	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 1	指定病院の状況 2
直営	4	-	1	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,780,079	11,975	非該当	15 : 1	

1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン（放射線）診療
 2 救...救急告示病院 臨...臨床研修病院 が...がん診療連携拠点病院 感...感染症指定医療機関 へ...へき地医療拠点病院 災...災害拠点病院 地...地域医療支援病院 特...特定機能病院 輪...病院群輪番制病院

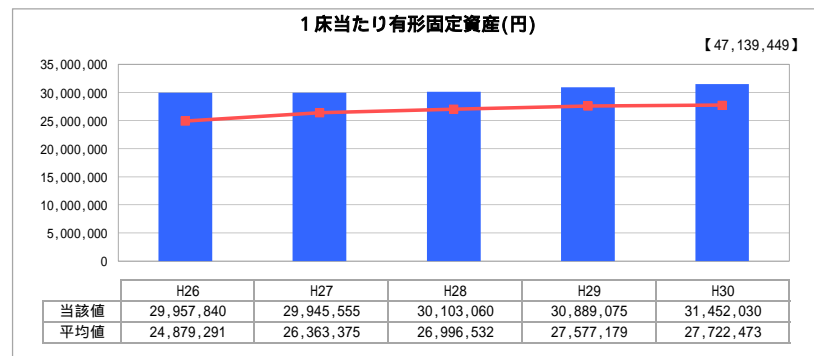
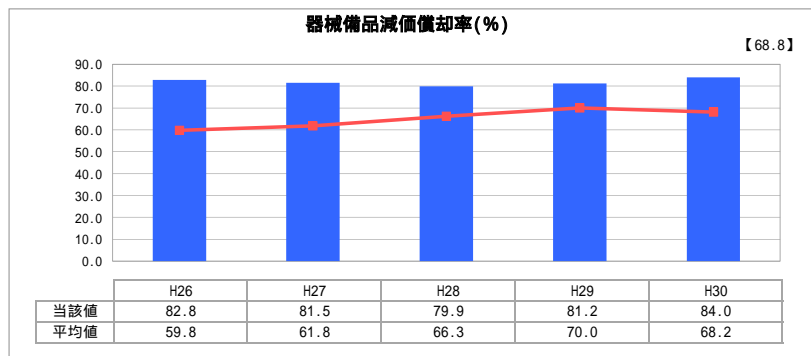
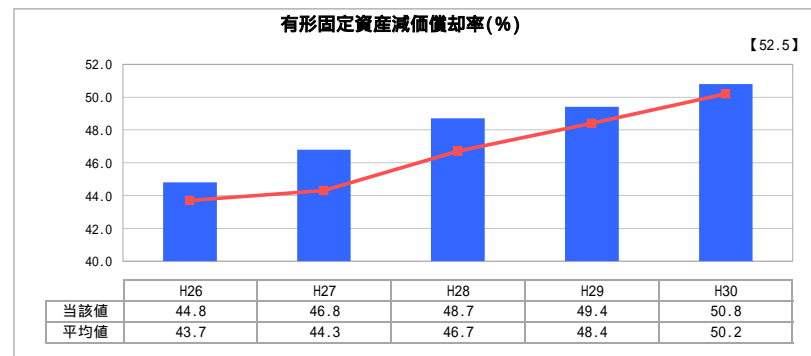
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	10
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
190	-	200
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例
当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

地域において担っている役割

民間精神科病院等では対応が困難な患者の最終的な受け皿になるとともに、精神疾患と結核の合併症患者を受け入れる等、県内精神科医療のセーフティネット機能としての役割を担っている。また、発達障害を含む児童・思春期医療については、県内の専門医療機関や専門医が不足していることから、専門外来や入院施設を開設するなど診療体制を強化している。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率：100%を上回っており、収益性について問題はない。
 医業収支比率：50%程度であり、全国平均を下回っている状況である。
 病床利用率：60%を下回っているが、稼働病床数ベースでは70%を上回っている。
 患者1人当たり収益：全国平均を下回っており、新たな診療報酬加算も含めて検討している。
 職員給与費対医業収支比率：110%を超えており、職員配置に相応する診療報酬増に取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

当院は、平成9年の新病院開設以来、約20年を経過している。
 有形固定資産減価償却率：施設及び設備については、今後老朽化が予想されるため、施設全体を対象とした施設改修計画に基づき、計画的な施設・設備の改修・更新を行う。
 器械備品減価償却率：80%前後で推移しており、機器の老朽化が進んでいるため、計画的な機器の更新等を行う。
 1床当たり有形固定資産：全国平均を上回っているものの、設備投資を抑制し、その差は縮小しつつある。

全体総括

経営は順調に推移している。
 今後も平成30年3月に策定した「第3次中期経営計画」に基づき、経営の改善を図るとともに、適切な精神科医療を実現するため、健全な経常収支を維持・継続する。
 また、民間精神科病院等では対応が困難な患者の最終的な受け皿になるとともに、県内精神科医療のセーフティネット機能としての役割を果たすとともに、患者の地域移行支援や児童・思春期医療の推進を図っていく。

「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。